

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（1月分）

留学先大学：貿易大学

氏名：小泉春樹

留学前にある留学準備のための授業で、ある学術用語を習った。それは、「ハネムーン期」だ。ハネムーン期とは、カルチャーショックの段階の一つであり、留学初期の高揚した状態をいうのだという。しかし、僕の留学生活はこの一単語とは全く無関係な始まりであった。

1月3日にノイバイ空港に降り立った日、その日が精神的に最も辛かった。今までの大切な繋がりが、人との繋がりが、一気に途切れてしまったかのような感覚だった。やはり孤独というものは何よりも辛い。しかし、そんなことを言っている暇もなく、携帯用SIMカードの購入やATMでの現金の引き下ろし、アパート探し、交換留学生対象のオリエンテーション、留学に関する書類の追加提出、派遣先大学での履修登録、さらには福井大学で残してきた授業の特別課題等々、やらなければいけないことがどつと降りかかってきた。もちろん、これらに加えて、新しく出会う人と人間関係を築いていくことや、大学や家回りの土地を把握していくことなど、日常で不可欠となっていくことも多くある。シンプルに、知らない土地に放り出された状態だった。他の提携校と違い、貿易大学にはバディ制度というものがいないため、なかなか大変だった。そして何より、街中ではほとんど英語が通じないため、どこへ行っても言葉が通じず、身振り手振りとGoogle翻訳を駆使して会話を行った。（Google翻訳は素晴らしすぎる。）言葉が通じなくても人と繋がることはできるし仲良くなれる、とはいうし、それには同意だが、現地の言葉はわかった方が絶対に良い。そう痛感している。スーパーで買い物するにしても、店員さんに何か注意されてそれがさっぱり何を言っているかわかんない、なんて状況になるものだから、言葉一つでいちいち不便を感じるようになってしまうのだ。とりあえず、このような感じでハネムーン期のハの字もないような留学のスタートだった。着いたらまず、生活の基盤を整える。新しい生活が始まれば当たり前のことだが、国内で行うよりは骨の折れる日々であった。

2週間もすると諸々のことが落ち着き、大学での授業と有り余る時間の使い方という問題に取り組む日々が始まった。授業について述べておきたいことはいくつかあるが、まず、勉強する環境は福井大学のほうが圧倒的に整っている。授業の質もしかり。一番問題だったのが、入った学部（ビジネス系）での授業で、基本事項としてサラッと流されるものがさっぱりわからないということだった。国際地域学部から国際ビジネス学部のようなところに移り、同じ授業を受けるのは2、3年生。彼らは1年生時にカリキュラムの一つとして、ある程度経営や会計などを学んでいたようで、そこでの知識が当たり前のように授業で出てくることがある。「これ習ったことあると思うけど、何かわかる人〜？」みたいな質問がよく教授から投げかけられる。「ん、わかりません。」となる。もちろん、すべ

での授業がそうではないが、こういったことは他の大学に派遣されても起こりうることもあるから、事前に自分が所属する学部が何かをちゃんと把握することは大切だと思う。日本から経営学系の本を一冊持ってくればよかったと今感じている。その他、授業に関してあげるとすれば、1限が6:45から始まるということだろうか。早い。早すぎる。1月のハノイはまだまだ寒く、ダウンを着てちょうどいいような気温。そんな季節の朝6時起きは過酷である。その分1限は9:10に終わるため、授業が終わってやっと一日が始まるような気分にはなれる。だが、驚いたことに誰も間に合わない。教授すら間に合わない。授業開始は決まって7時を越える。大体30分遅れで教授と生徒が一通り揃い、そこから授業が始まる。なぜ開始を6:45にする。大学に聞きたい。とはいえ、なんだかんだ僕自身6:45に間に合ったことはない。しかし、必ず僕よりも教授のほうが来るのが遅いので、遅刻したことはない。時間にルーズな文化、ありがとう。そう思う日々である。話を戻すが、授業にはもちろんいいところもある。生徒の英語力がとてつもないということだ。

「欧米か！」と思わずツッコんでしまいたくなるほど、皆流暢に英語を話す。東南アジアの訛りなど、微塵もない。そして、その英語力を使い授業でも比較的活発に意見を述べる。授業の内容についていくどうこの前に、自分にはあれほどの英語力はないということを知らされた。授業で積極的に発言すること、これは留学中の自分の一つの課題であり目標である。

落ち着いた日々を送れるようになってきて、もう一つ問題になったことがある。それは、時間のあまり方が半端じゃないということである。今期、僕の取っているすべての授業は午前中で終わる。早くて9:10、遅くて11:45。ほとんど一日余る。日本にいた時は、常に何かしら熱中するものがあつたが、それが見つからない。探そうと思っても、得られる情報量自体が少ないので、物事がなかなか進まない。それがぼーっと生きているように感じられて、とても歯がゆく、苦しい。これは時間をかけてでも見つけるつもりだ。

最後に、最初の一ヶ月でより考えるようになったことについてまとめて終わりにする。これは考え過ぎの性格なのかもしれないが、「留学ってなんだろう」ということがじんわり常に頭の中にある。留学希望を出す前からずっと考えている。けれど、どの答えもパツとしない。なぜ留学したいのか。これに対して何でもいいから自分なりの答えがなければ、留学にこだわらなくてもいい気がするのだ。日本でしたかったこともあるし、日本でできたこともある。何より、日本にいても海外にいても、結局はその土地で行動を起こしていかなければ何も叶えていけないのだから、行動を起こすための目的、目標は必要なのではないかと思う。自分はこの一年で何がしたいのか、どう生きるのか、それをよく考えなおした1か月であった。一年の間に達成したいことと、それに対する具体的な行動目標を明確にし、実行し始めた。